

資料

女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因

布施谷節子, 高部啓子, 有馬澄子*

(大妻女子大学短期大学部, * 東横学園女子短期大学)

原稿受付平成 10 年 1 月 7 日; 原稿受理平成 10 年 7 月 4 日

Body Awareness of Female College Students and
Factors Influencing Their Perceptions on Body Shape

Setsuko FUSEYA, Hiroko TAKABU and Sumiko ARIMA*

*Junior College Division of Otsuma Women's University, Tama, 206-8540*** Toyoko Gakuen Women's College, Setagaya-ku, Tokyo 158-8586*

The aim of this study is to clarify body awareness of female college students and factors influencing their perceptions on body shape. A survey and body measurements were carried out on 289 female college students in 1993.

The results obtained are as follows:

- 1) Students are discontented with their large body girths, except bust girth, and their short heights and linear measurements. They are especially discontented with the lower half of their bodies.
- 2) Students have a certain common image of the ideal body shape. Consequently, the standard deviations of ideal body values are smaller than those of students' real body values.
- 3) Perception of body shape is composed of five factors, namely orientation to slenderness, slim hip, slim waist, large bust and tall stature.
- 4) Satisfaction with the whole body is influenced by the shape of individual body features.
- 5) Magazine articles on body shape or stylishness are important factors in determining body awareness.

(Received January 7, 1998; Accepted in revised form July 4, 1998)

Keywords: questionnaire 質問紙調査, satisfaction 満足, principal component analysis 主成分分析, ideal body shape 理想のからだつき, mass communication マスコミ, orientation to slenderness スリム志向.

1. 緒言

近年, 若い女性のみならず, 児童・生徒や中高年の女性もやせ志向が強くなり, これが衣服の選択行動にも表れていることは, 従来の研究の中で明らかにされている(岡田 1988, 1990, 1992; 植竹 1988; 植竹と松山 1994; 高森 1991; 藤木 1990; 加藤と室屋 1993; 森田と間壁 1993). 情報化時代と言われる今日, テレビ, 新聞, 雑誌, 折り込み広告, 電車内の吊り広告など, 様々なマスメディアを通して, ファッションやダイエットに関する情報が日常生活の中に溢れている。そこで, これらマスメディアの影響を受けやすいと思われる女子短大生を研究対象として, からだつきに対する

満足度や, 理想とするからだつきとのギャップなどから, 若い女性のからだつきに対する意識を明らかにし, その意識を形成している要因をマスメディアの中に探ることを目的とした。

2. 研究方法

調査対象は, 都内の女子短期大学の 1, 2 年生, 合計 289 名であり, 調査の実施時期は 1993 年 9~10 月である。被験者のからだつきを通産省工業技術院の体格調査(日本規格協会 1984)の 19 歳女子と比較すると, 身長, 胸囲および腰囲は, 危険率 1% 水準, 比胸囲(胸囲/身長)は危険率 5% 水準でそれぞれ有意に

大きく、比体重（体重/身長）は危険率5%水準で有意に小さい。なお、胸囲・体重には有意差は認められない。したがって、被験者の体格は体格調査結果と比べて、高身長でスリムかつ、相対的に胸囲と腰囲が大きいからだつきをしていると言える。

表1に、身体計測21項目とからだつきに関する意識調査90項目の概要を示す。身体計測方法は、通産省工業技術院の体格調査（日本規格協会1984）に準拠した。質問項目は、1993年の春から夏に、新聞・雑誌などの活字メディアに取り上げられたからだつきに関する特集記事を収集・分類する予備調査を経て設定したものである。意識調査は集団調査による質問紙調査法である。なお、本研究では、胸囲とバスト、胸囲とウエスト、腰囲とヒップのように身体の同一部位を2通りの表現を用いた。原則として、身体計測値または希望や理想の数値として表現する場合には胸囲、

胸囲、腰囲を用い、質問紙調査から得られた意識として表現する場合にはバスト、ウエスト、ヒップを用いて使い分けた。これは、女子短大生が胸囲と腰囲を混同することがしばしば見られたためである。

若い女性のやせ志向は、現実の自己の身体に不満を感じ、理想とする身体に近づけたいと願うことにある。そこで、現実の身体と希望または理想の身体との関係を知るために、身体計測を行うと同時に身体各部の希望値・理想値について調査した。現実値とは、身体各部位の実際の計測結果である。希望値・理想値については、被験者に次のような教示を与えて、その数値を回答してもらったものである。すなわち、希望値とは、自己の身体について、特別なダイエットなどの手立てをしなくても達成可能と考えられる範囲内という条件での身体部位の値である。また、理想値とは、自己の身体とは全く関係なく回答者が考えている絶対的な理

表1. 身体計測項目とからだつきに関する意識調査項目の概要

身体計測 (28項目)	
計測項目 (21項目)	1. 身長 2. 袖丈 3. 背丈 4. 胸高 5. 全頭高 6. 頸付根囲 7. 胸囲 8. 腹囲 9. 胸囲 10. 腰囲 11. 上腕囲 12. 大腿囲 13. 下腿囲 14. 背肩幅 15. 胸部横径 16. 胸部矢状径 17. 胸部横径 18. 胸部矢状径 19. 腰部横径 20. 腰部矢状径 21. 体重
計算項目 (7項目)	1. 頭身指数 2. ローレル指数 3. 胸部横矢指数 4. 胸部横矢指数 5. 腰部横矢指数 6. 胸囲 -胸囲 7. 腰囲-胸囲
からだつきに関する意識調査項目 (90項目)	
からだつきの評価 と満足度 (41項目)	1. 顔の大きさ 2. 頸の長さ 3. 頸の太さ 4. 両肩の幅 5. 上腕の太さ 6. 前腕の太さ 7. 腕の長さ 8. バストの大きさ 9. ウエストの太さ 10. ヒップの大きさ 11. ヒップの幅 12. ヒップの位置 13. 大腿の太さ 14. ふくらはぎの太さ 15. 足くびの太さ 16. 脚の長さ 17. ウエストの高さ 18. 背の高さ 19. 肥瘦度 20. 体重 (1~20項目の評価と満足度は対で) 41. からだつき全体の満足度
からだつきを表現 する言葉の適合性 (25項目)	1. 胸長短足 2. グラマー 3. 下半身大 4. 出尻 5. 出腹 6. 鳩胸 7. 猫背 8. 平尻 9. 平背 10. 反身体 11. 屈身体 12. 扁平体 13. 頭でっかち 14. 大柄 15. 小柄 16. がっし り 17. きゃしゃ 18. 中肉中背 19. ぽっちゃり 20. メリハリ 21. なで肩 22. 怒り肩 23. ずん胴 24. 胴くびれ 25. 着やせ
理想のからだつき (6項目)	1. 頭身指数 2. 身長 3. 体重 4. 胸囲 5. 胸囲 6. 腰囲
希望のからだつき (5項目)	1. 身長 2. 体重 3. 胸囲 4. 胸囲 5. 腰囲
体型と着装に関する 雑誌記事 (4項目)	1. 購読の有無 2. 興味記事 3. 役立て方 4. 記事内容の相違
その他 (9項目)	1. 理想のモデル 2~4. やせ志向の原因 (3位まで) 5~7. 下半身の悩みの原因 (3位まで) 8. 着装による工夫の仕方 9. 適合するシルエットライン

女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因

想の値という条件であり、例えばスーパーモデルなどが参考になっているものと考えられる。

本文中では、「体型」よりも「からだつき」という言葉を多く用いたが、これは、身体計測値だけでは表現できない体型的特徴を、若い女性やマスコミで用いられることが多い用語によっても明らかにしたいという立場からである。

解析方法は、意識調査項目については単純集計とクロス集計、身体計測値や希望値・理想値については主成分分析による。

3. 結果および考察

(1) からだつきに対する意識

1) 身体各部位についての満足度と自己評価値の比較

表1に示したからだつきに関する意識調査項目の中で、からだつきの評価と満足度に関する身体部位20項目について、5段階評価で満足度の平均値を算出した結果、すべての項目で「普通」を下回った。20項目中満足度で「やや不満」を下回った9項目を取り上げて、自己評価値と併せて図1に示す。実線は満足度を、破線は自己評価値を表す。満足度と自己評価値との関係を見ると、肥瘦度と体重ならびに周径項目では、ウエスト、ヒップ、大腿、ふくらはぎについて不満であり、それらは太いと自己評価している。長径・高径項目では脚の長さ、ヒップの位置が不満であり、自己評価値から短い、低いことが不満であることがわかる。一方、ヒップの幅は広いことが不満であることがわかる。身体各部の太さに対する意識が強いことは藤木(1989)、岡田(1990, 1992)と一致している。しかしながら、本研究では特に下体部の太さに対する不満意識が強いことと、新たに脚の長さ、腰の位置や幅に対する下体部のバランスに関しての不満意識が強いことが明らかになった。

2) 身体各部位の現実値と希望値および理想値からみたからだつきの意識

現実値と希望値と理想値の合計26項目の主成分分析を行った結果、固有値1以上を示す七つの主成分が抽出され、累積寄与率は77.9%である。表2の因子負荷量から各主成分の解釈を試みると、第1主成分は、身長、頭身指数以外の現実値がプラスに高く負荷している反面、希望値と現実値の差では体重と周径項目がマイナスに高く負荷していることから、太っている人がよりやせたいと願っていることを示す成分であると

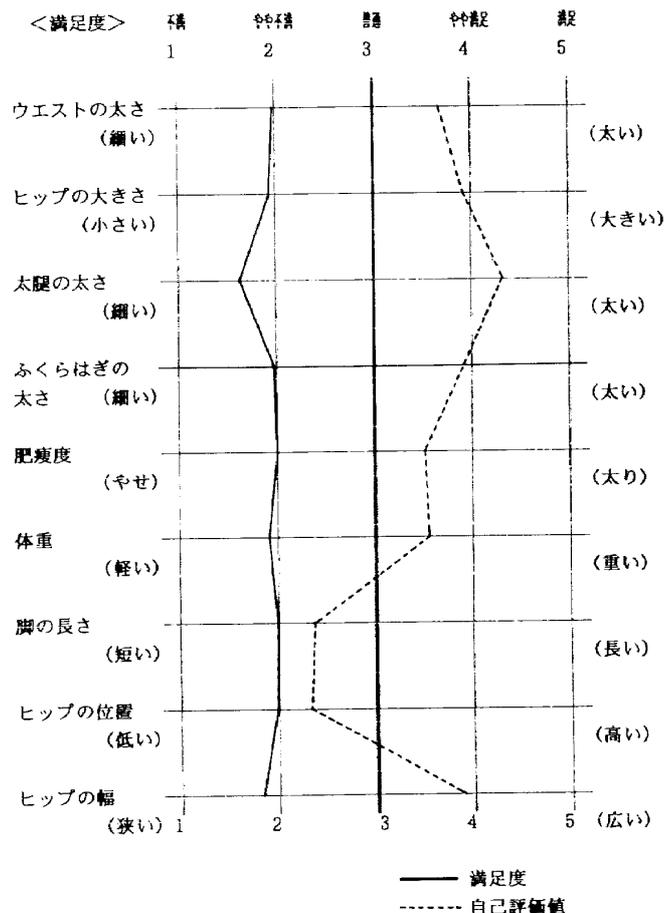


図1. からだつきに関する評価項目の自己評価値と満足度の平均値の比較

解釈できる。第2主成分は、現実値、理想値の身長がプラスに高く負荷し、希望値の比周径項目がマイナスに高く負荷することから、身長が高い人でも、よりスリムなプロポーションを願い、高い身長を理想としていることを表す成分であると解釈できる。第3主成分は、希望値の比腰囲、腰囲の現実値と希望値の差、ならびに理想値の腰囲がマイナスにやや高く負荷することから、より小さな腰囲を願い、理想とする成分であると解釈できる。第4主成分は、希望値の比胸囲、胸囲の現実値と希望値の差、ならびに理想値の胸囲がプラスにやや高く負荷することから、より大きな胸囲を願い、理想とする成分であると解釈できる。第5・第6主成分では、身長の希望値の正負が逆であるのに、理想値の胸囲はいずれも負のやや高い負荷を示している。すなわち、身長的高低にかかわらず細い胸囲を理想とする成分であると解釈できる。第7主成分は、現実の頭身指数を表す成分である。

以上のように、主成分分析の結果から、若い女性の

表2. 身体各部位の現実値・希望値・理想値の主成分分析 (因子負荷量)

	1	2	3	4	5	6	7
1. 身長	0.172	0.852	-0.313	-0.097	0.246	0.078	0.101
2. 体重	0.851	0.384	-0.166	-0.056	0.156	0.104	0.103
3. 胸囲	0.844	0.097	-0.060	-0.054	0.300	-0.244	-0.098
4. 胴囲	0.917	0.115	-0.070	-0.039	-0.080	0.024	-0.040
5. 腰囲	0.851	0.203	-0.076	-0.048	0.007	0.279	0.052
6. ローレル指数	0.852	-0.384	0.126	0.033	-0.059	0.038	0.021
7. 頭身指数	-0.102	0.357	-0.099	0.031	0.230	-0.106	-0.669
8. 比体重	0.932	0.170	-0.089	-0.033	0.104	0.095	0.083
9. 比胸囲	0.770	-0.380	0.114	0.000	0.172	-0.297	-0.157
10. 比胴囲	0.843	-0.334	0.099	0.014	-0.214	-0.020	-0.094
11. 比腰囲	0.783	-0.360	0.133	0.016	-0.158	-0.020	-0.014
12. 希望比体重	0.467	0.269	-0.373	-0.205	0.027	0.284	0.317
13. 希望比胸囲	0.116	-0.668	-0.080	-0.495	0.186	-0.210	0.146
14. 希望比胴囲	0.428	-0.600	-0.185	-0.261	-0.235	-0.216	0.155
15. 希望比腰囲	0.207	-0.720	-0.440	-0.054	0.079	0.167	-0.195
16. 現実値との身長差	-0.001	-0.080	0.253	0.033	-0.509	0.494	-0.304
17. 現実値との体重差	-0.685	-0.089	-0.207	-0.217	-0.190	-0.048	-0.039
18. 現実値との胸囲差	-0.698	-0.151	-0.137	0.417	-0.120	0.273	0.234
19. 現実値との胴囲差	-0.765	-0.079	-0.221	-0.211	0.030	-0.049	0.214
20. 現実値との腰囲差	-0.561	-0.286	-0.525	-0.133	0.137	-0.026	-0.218
21. 理想頭身指数	0.102	0.176	0.179	0.480	-0.018	-0.123	0.011
22. 理想身長	0.097	0.580	-0.095	0.411	-0.377	-0.127	-0.134
23. 理想体重	0.295	0.451	-0.292	0.173	-0.488	-0.266	-0.124
24. 理想胸囲	0.179	-0.046	-0.364	0.749	0.138	0.036	0.159
25. 理想胴囲	0.224	0.075	-0.372	-0.205	-0.516	-0.408	0.197
26. 理想腰囲	0.076	-0.248	-0.732	0.108	-0.039	0.217	-0.270
固有値	9.06	3.79	1.97	1.71	1.44	1.16	1.12
累積寄与率	34.9%	49.4%	57.0%	63.6%	69.1%	73.6%	77.9%

□ > |±0.4|. N=234.

からだつきの意識構造は、主に五つの成分から成ることがわかった。すなわち、やせ、高身長、小さな腰囲、大きな胸囲、小さな胴囲という、高身長でやせ型ながら胸が大きいからだつきを願望することが明らかになった。

次に、現実値、希望値、理想値の具体的な数値を表3に示し、相互比較を行った。なお、希望値の身体5項目については、現実の身体をどの程度修正したいと願っているものかを知るために、現実値との差(希望値-現実値)を正負の値で表した。現実値と希望値との差から、身長(+0.4 cm)、胸囲(+1.0 cm)は希望値が大きく、胴囲(-3.5 cm)、腰囲(-3.6 cm)、

体重(-3.7 kg)は希望値が小さい。身長は現実値と希望値との差が小さいため、比胸囲、比胴囲などのプロポーションの希望値は、現実値のプロポーションとの間で有意な差がみられた。

また、身体各部位の理想値と現実値との差は、体重を除いて、希望値と現実値との差より大きい。

さらに、理想値の標準偏差の方が、いずれの項目においても小さく、つまりバラツキが小さい。したがって、被験者の間で共通の理想値が出来上がっていると考えられる。理想値のモデルについては特に具体的なものはなく、架空の女性を思い描いている場合が72.5%を占めていた。

女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因

表3. 身体各部位の現実値と希望値ならびに理想値

項目	希望値 (cm)		検定	現実値 (cm)		検定	理想値 (cm)	
	Mean	S. D.		Mean	S. D.		Mean	S. D.
身長	+0.4 [†]	1.4	n.s	158.4	4.7	**	163.6	3.8
胸囲	+1.0 [†]	3.6	n.s	82.7	4.5	**	84.9	2.3
胴囲	-3.5 [†]	2.7	n.s	62.3	3.6	**	58.0	1.5
腰囲	-3.6 [†]	4.4	n.s	89.5	4.2	**	85.1	3.0
体重	-3.7 [†]	3.4	n.s	50.1	5.4	**	47.2	2.8
比胸囲	52.7	2.2	*	52.2	2.8			
比胴囲	37.1	1.3	**	39.4	2.2			
比腰囲	54.0	2.1	**	56.5	2.5			
比体重	29.2	2.7	**	31.6	2.9			

[†]希望値と現実値の差を表す (+は現実値より大きい値を希望し, -は現実値より小さい値を希望することを表す).
*:危険率5%水準で有意差あり, **:危険率1%水準で有意差あり. N=234.

岡田(1990)の1984, 1985年調査の20歳前後の女性の理想値と比較すると, 本研究の理想値は, 身長が3.4 cm, 胸囲が2.1 cm大きく, 危険率1%水準で有意差が認められる一方, 胴囲は0.4 cm小さく, 危険率1%水準で有意差が認められた. 腰囲・体重には有意差は認められなかった. 岡田の調査から8~9年が経過した本研究の結果から, 若い女性の理想は, より高身長で, 相対的に胸囲が大きく胴囲が小さいものへと変化をしていることが明らかであった. からだつきに対する意識と若い女性の体格の時代変化との関係から, 希望値や理想値も変化するであろう. したがって, 今後とも希望値, 理想値の継続調査は必要性かつ興味ある課題であると考えられる.

3) からだつきの各部を表現する言葉の適合度とからだつき全体の満足度との関係

からだつき全体に対する満足度(項目No. 41)は, 大いに不満(35.4%), やや不満(50.0%)を合わせて不満は85.4%にも達しており, 若い女性のからだつきに対する不満が大きいことが明らかである.

からだつきは, 身体各部の単独の計測項目だけでは表現しかねることがあり, 従来, からだつきの各部の表現として表1に示すような言葉が用いられている. そこで, これらのからだつきを表す言葉が自己に適合する度合いと, からだつき全体についての満足度との相関を検討した. 相関係数を算出した結果, 25項目中9項目に有意な相関が見られた. これら9項目の相関係数を表4に示す. 「きゃしゃ」や「胴くびれ」が自己に当てはまる場合には, 0.3程度の正の相関があ

表4. からだつき全体についての満足度とからだつきを表現する言葉の適合度との相関

項目	相関係数 <i>r</i>
下半身大	-0.415
出腹	-0.387
ぽっちゃり	-0.342
胴長短足	-0.288
出尻	-0.264
ずん胴	-0.262
がっしり	-0.234
きゃしゃ	+0.364
胴くびれ	+0.317

N=255.

り, 自己のからだつきに対して満足の様子が読み取れる. しかし, その他のからだつきを表す言葉では, 負の相関を示し, からだつき全体の満足度は低いことがわかる. 中でも, 「下半身大」や「出腹」という言葉では0.4程度の負の相関があり, 被験者が下体部に不満を抱いていることが読み取れる. したがって, 本研究の結果から, からだの部分の形状が, からだつき全体の満足度に影響することが明らかになったといえる.

(2) からだつきの意識を形成する要因

1) 下体部についての不満や悩みの要因

前述までの被験者の下体部についての不満や悩みを受けて, その理由を順位付けで選択させた. 結果を3位までの累積度数で示す(図2). 1位はパンツやミニスカートが流行しているためとするもので, 圧倒的

に多く、2位は下体部は上体部に比べてやせようとしてもやせにくいからというものである。次いで脚の細さにあこがれるから、次に下体部は衣服でカバーしにくいからという順であり、衣服からの影響が大きい要因となっている。したがって下体部をカバーする衣服

の必要性が明らかになった。

2) やせ志向の要因

下体部のみならず、被験者のやせ志向は明らかである。このやせ志向の要因と考えられる10項目の中から3位までの順位付けで選択させた。図3に示すよう

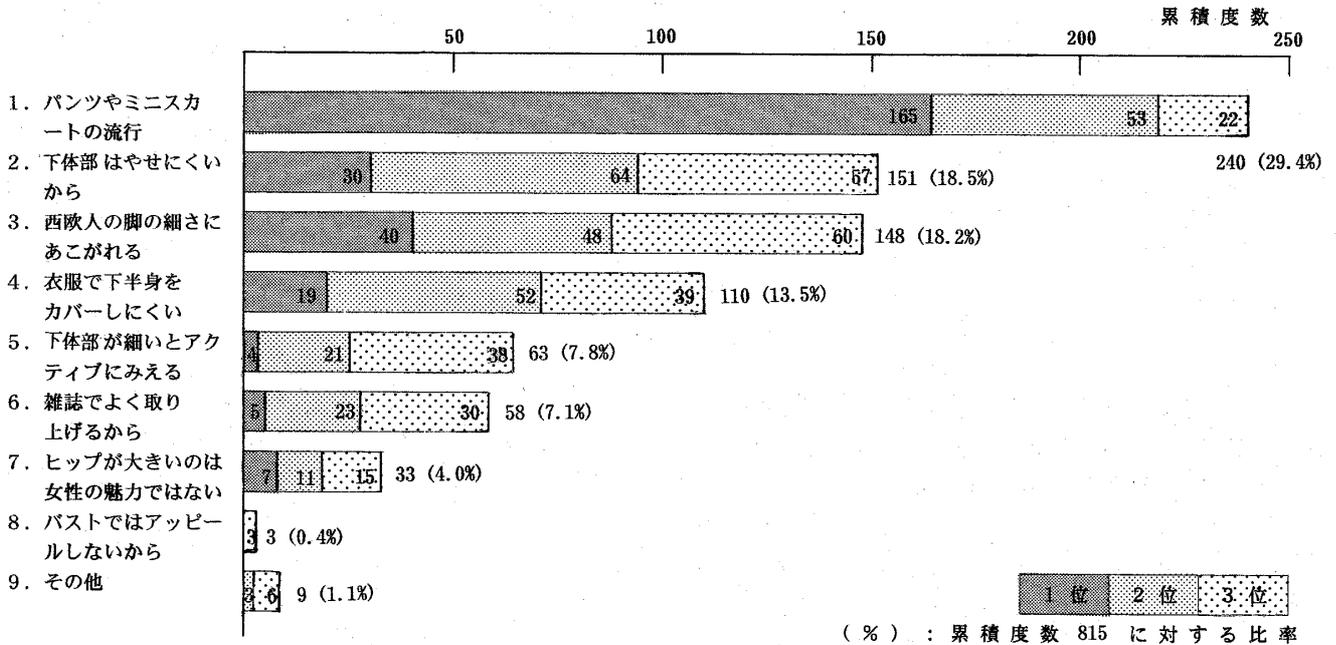


図2. 下体部についての不満や悩みの理由 (1位~3位) 出現頻度

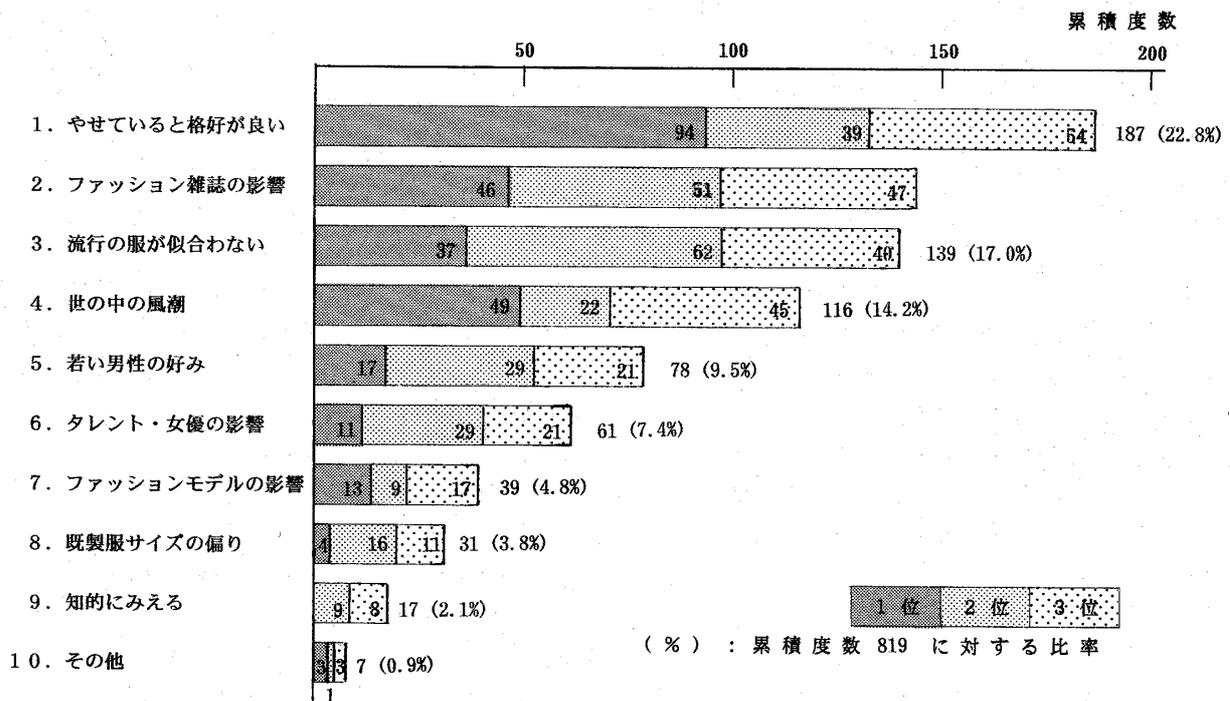


図3. やせ志向の理由 (1位~3位) 出現頻度

女子短大生のからだつきに対する意識とそれを形成する要因

に、累積度数による第1位はやせていると格好が良い、2位はファッション雑誌や週刊誌の影響、3位はやせていないと流行の服が似合わない、第4位は世の中の風潮だからというものである。やせていることをよしとする価値観ややせていないと流行の服が着られない現実などが、若い女性のやせ志向を増幅させていると考えられる。また、流行の衣服ややせの風潮が、マスメディアから発信され、女子短大生がこの影響を受けていると考えられる。

3) マスメディアの影響

体型や着装に関する雑誌の特集記事について四つの質問項目(表1)を作成し、活字によるマスメディアの影響について検討した。その結果、体型に関する雑誌記事を購読するか(購読の頻度の差はあるものの、購読者は約90%である)と、それが役立つ情報と思うかについての相関係数は、0.467の相関があり、読まない人は役立つ情報だと考え、読む人は役立つ情報だと考える傾向があることがわかった。

そこで、体型に関する記事の中から掲載されることが多い五つの内容の記事を取り上げて、被験者のからだつきの自己評価値との関係をみた。表5に示すように、最も興味を示された記事は、下体部をカバーする方法であり、次いでメリハリのあるボディー作りである。その他は順に、脚を長く見せる方法、着やせする方法、バストを豊かに見せる方法であることを示している。

五つの記事に興味を示した被験者について、からだつきの自己評価項目(表1のからだつきの評価からNo. 19と16、からだつきを表現する言葉からNo. 3と20)との関係を、各項目の5段階評価別人数で見ると次のことがわかった。すなわち、自分が太っていると評価する人は、普通や、やややせていると評価す

る人よりも着やせする方法に関する記事に興味があることがわかった。脚の長さの評価では、自分が脚が短い、やや短いと評価する人は、着装によって脚を長くみせる方法に関する記事に興味があることがわかった。下体部をカバーする方法、メリハリのあるボディー作り、バストを豊かに見せる方法の記事についても、同様に、からだつきに対してコンプレックスを抱くことが多い学生が、その問題解決法を雑誌記事に求める傾向を読み取ることができた。

4. 要 約

女子短大生289名を対象として、身体計測値とからだつきに関する意識調査により、からだつきに対する意識とそれを形成する要因について検討した。得られた主な結果を要約して次に示す。

- 1) からだつきを満足・不満足という観点からみると、全般に太いこと、低いことが不満であり、殊に、下体部のからだつきに不満が多いことがわかった。
- 2) 理想のからだつきは、女子短大生全般にわたり、共通したイメージと理想の数値が出来上がっており、その理想と現実のギャップが、自分のからだつきに対する不満意識を形成することにつながっているものと考えられた。
- 3) 女子短大生のからだつきの意識構造は、主成分分析により、やせ願望や高身長、大きな胸囲、小さな胴囲や腰囲を願い、また理想とする五つの成分からなることが明らかになった。
- 4) からだの部分の形状の中で、特に下体部の形状がからだつき全体の満足度に関わることが明らかになった。
- 5) からだつきについての悩みの要因分析や雑誌記事の購読分析から、女子短大生にとって、ファッショ

表5. 雑誌の興味記事とからだつきの自己評価値の関係

対処方法の記事	興味を示した 人数(人)	からだつきの 自己評価項目	段階評価別人数(人)				
			1	2	3	4	5
1. 着やせする	44	太っている	—	1	9	19	15
2. 脚を長く見せる	48	脚が長い	18	14	15	1	—
3. 下体部をカバーする	72	下半身大	1	—	6	22	43
4. メリハリのあるボディー作り	65	メリハリがある	17	11	31	6	—
5. バストを豊かに見せる	17	メリハリがある	7	3	7	—	—

N=246. 段階評価: 1, 当てはまらない; 2, やや当てはまらない; 3, どちらともいえない; 4, やや当てはまる; 5, 当てはまる。

ン雑誌や週刊誌などマスメディアの影響が大きいことが示唆された。

引用文献

- 藤木悦子 (1989) 体型に関する意識と衣服スタイル嗜好(1)―体型に関する意識について―, 福岡女短大紀要, **38**, 11-20
 藤木悦子 (1990) 体型に関する意識と衣服スタイル嗜好(2), 福岡女短大紀要, **39**, 11-20
 加藤 鈞, 室屋敬子 (1993) 女子学生の体型に関する意識調査についての一考察, 一宮女短大紀要, **32**, 39-50
 森田考恵, 間壁治子 (1993) 自己の体型意識と身体計測値とのかかわり, 共立女大家政学部紀要, **39**, 69-74

- 日本規格協会 (1984) 『日本人の体格調査報告書』, 日本規格協会, 東京
 岡田宣子 (1988) 日本人成人女子にみられる身体形質の近代化と衣生活意識との関連性, 家政誌, **39**, 699-710
 岡田宣子 (1990) 母と娘の体つきの意識―瘦身志向について―, 家政誌, **41**, 867-873
 岡田宣子 (1992) 体つきの意識と生活行動―女性の下着の衣生活を中心として―, 家政誌, **43**, 37-44
 高森 壽 (1991) 女子高校生の自己の体型に関する意識と夏期用衣服の色彩嗜好, 家政誌, **42**, 1085-1093
 植竹桃子 (1988) 衣服設計の立場からみた肥り痩せの意識, 家政誌, **39**, 711-723
 植竹桃子, 松山容子 (1994) 児童・生徒における肥り痩せの意識, 家政誌, **45**, 83-91